

これからの大和町議会のあり方ゼミナール発表会(第5回)

まとめ

日 時:令和 4 年3月 26日(土)午後3時～

参加者:研究員17名 町議会議員18名

これまでのゼミナールで話し合われた内容をまとめ、議員を交えて発表会を行いました。本年度のゼミナールで見えてきた課題やその解決方法については、次年度以降に議会議員を含めた場において検討を重ねていく事としています。

1. 開会

2. 挨拶 議長 高平聡雄

当プロジェクトにより議員のなり手育成や定数・報酬、兼業について様々な角度から研究をしていただき今日 5 回目ということで成果発表会となりました。

今日の発表を踏まえ、新年度からは議員も交わってこの活動を進めて参り、最終的には大和町議会としてどうあるべきかという結論に向かって話を詰めていきたいと思えます。

新年度は議会も体制を整えまして、町民の皆様とさらなる研究を進めていくために議会活性化調査特別委員会の中で方向性を考えていくこととしております。

3. 発表

(1)これからの大和町議会のあり方ゼミナールの振り返り(議会事務局:相澤次長)

5 回開催した、これからの大和町議会のあり方ゼミナールについて活動報告

(2)グループ発表

進 行:宮城大学 事業構想学群 平岡善浩教授

課題区分としてA・B・C・D・Eの 5 つの区分と分けました。

これは、第 3 回の時に立候補するときにとどのような問題があるのかを出し合い整理したものです。

中でも広範囲に影響があるのがAでは、「家族や地域、勤め先の協力がないと議員でできない」ということがベースにあり、今日は課題区分の「B・C・D・E」の発表になります。

課題区分 A 「家族、地域、会社の理解・協力」

課題区分 B 「自己の意欲や知識、能力」

課題区分 C 「時間とお金」

課題区分 D 「生活や仕事の変化」

課題区分 E 「支援者や議会内での関係」

課題区分ごとの原因と解決策アクションアイデアが示されました。それによって、結果として起こること、望むこととして発表します。

課題区分 B 「自己の意欲や知識、能力」

発表ワークシート

☆ 課題	□ 原因	◎ 解決策	○ 結果
基準がない	<ul style="list-style-type: none"> ・議員に必要な能力が分からない ・議会と向き合えていない 	有識者からの推薦 社会貢献など実績がある 仲間づくり議員への知識を深める 議員テスト！	仕事の内容をより理解した人だけが立候補するようになる 能力適正の裏付けになり自信につながる 意欲が持てる
議会を知らない	<ul style="list-style-type: none"> ・知る機会が無い ・議会(議員)と住民の距離が遠い 	YouTubeなどで情報発信 議員と町民が関わるイベント 何らかの形で議員を表彰	信頼ができ、強い発信ができる。 取り巻き、地域の人に議員として、ふさわしいか理解してもらえる
現状の制度や環境が良くない	<ul style="list-style-type: none"> ・どこまでを議員の仕事にするのが不明 ・どこまで時間が取られるかが不明 	就労規則を明確に	自分が議員に立候補するときの自己意欲にもつながる

「自己の意欲や知識、能力」 発表内容

課題

- ☆ 議員になるときの明確な基準がない
- ☆ 議会を良く知らない事
- ☆ 現状の制度や環境が良くない

原因

- 議員に必要な能力がわからない
- 議会と向き合えていない

解決策

- ◎ 議員へ有識者からの推薦。
- ◎ 社会貢献など実績のある方を推薦する。
- ◎ 仲間をつくり議員への知識を深める。
- ◎ 議員に向いているかテストを実施する。

- ◎ YouTubeなどで住民が身近に感じられるもので情報発信する。
- ◎ 議員と町民が関わるイベントを行う。
- ◎ 何らかの形で議員を表彰する。
- ◎ 就労規則を明確にすること。

結果

- 仕事の内容をより理解した人だけが立候補するようになる。
- 能力適正の裏付けになり、自信につながって意欲が持てる。
- 信頼ができ、強い発信ができる。
- 取り巻き、地域の人に、議員としてふさわしいかを理解してもらえる。
- 自分が議員に立候補するときの自己意欲にもつながる。

参加した研究員の所感、意見

研究員 A

- ・議員は、何を解決しなければいけないか的確な掘り起こしができることが必要。
- ・解決するために原因があって解決策があり繋がっていると考える。
- ・明確なビジョンを表現していけるかが議員の役割なのではないか。
- ・制度、規則などは細かいことまで明確化するべき。
- ・公私、時間、お金の使い方が明確化することで、自身の余暇を使って心豊かに仕事に全うできることが確立されれば良いのではないか。

研究員 B(学生)

- ・学校では分からない知識を今回のワークショップで理解することができ、良い経験になった。

課題区分 C 「時間とお金」

発表ワークシート

☆課題	□ 原因	◎ 解決策	○ 結果
お金	<ul style="list-style-type: none"> ・議員報酬の低さ、少なさ ・選挙資金の支援がどこからもない 	1) 議員報酬の引き上げ 2) 福利厚生強化 3) 育休・産休の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人候補者が出てくる ・女性が活躍できる ・優秀な人材
		4) 議員年金・退職金等の必要性 5) 情報展開する (HP・広報)	
時間	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働の多さ (あいさつ回りなど) ・24 時間議員としての意識が必要 	6) 条例や制度の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が興味を持つ ・責任感が強まる ・選挙資金が抑えられる ・投票率向上
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・資金、時間がどのくらい必要なのか分からない 情報 × 		

「お金と時間」発表内容

「お金と時間」のテーマであったが、「情報」も必要と思ったので情報についても発表を行う。

課題

☆ お金

原因

- 議員の報酬の少なさ
- 選挙資金の支援がどこからもない

解決策

- ◎ 議員報酬の引き上げ
- ◎ 福利厚生強化

結果

- 若い人が出てくる。女性が活躍できる。優秀な人材が出てくる。
- 安心して、余裕のある活動が出来る。人手不足解消や少子化対策になる。
- 復帰後も頑張ろうと思える。

☆ 時間

原因

- 時間外労働の多さ(あいさつ回りなどで時間が取られる。時間が不明瞭)
- 24 時間議員としての意識が必要

解決策

- ◎ 福利厚生強化。
- ◎ 議員年金や、退職金制度等が必要。
- ◎ 情報展開をする必要があるのではないか。(広報や HP を使用する)

結果

- 若い人が出てくる。女性が活躍できる。優秀な人材が出てくる。
- 安心して、余裕の圧活動ができる。人手不足、少子化対策にもなる。
- 投票率の向上につながる。
- 復帰後も頑張ろうと思える。

☆ 情報

原因

- 資金、時間がどのくらい必要なのかわからない。
- 情報が無いことが原因

解決策

- ◎ 情報展開する。(HP や広報などで)

結果

- 若い人が興味をもつ。
- 責任感が強まる。
- 選挙資金が抑えられる。
- 投票率が向上する。

参加した研究員の所感、意見

研究員 C

昨年、転勤で大和町に引っ越してきて、この地域のこと分からなかったが、職場以外のところで様々な年代の方々と交流を深められて良い経験になった。

研究員 D(学生)

何かの課題に対してこのように展開して結果を出すやり方は、同じ年代でやったことはあったが、年代も性別も違った中で最初は緊張して上手く意見を出せなかったけれど、回数を重ねるごとに皆さんと交流も深まり、色々な年代からの意見も交換し合えて、すごく良い経験になった。

課題区分 D 「生活や仕事の変化」

発表ワークシート

☆ 課題	□ 原因	◎ 解決策	○ 結果
①時間のリスク	・活動に要する時間、期間が分からない	A 議員、候補者に対して ・近い考えの候補者、支援者とチーム。仕事、お金(費用)の分配	・他の人に頼みやすい ・町自身の仕事も優先しやすい
②お金のリスク	・能力や仕事量の差(分配されない)	・チーム同士(内外)での意見交換、町長との連携(チェック)	・町民参加が増えると、顔、活動内容を覚えてもらいやすい→信頼されやすい
③キャリアのリスク	・活動費の目安が分からない(調査費、交際費)	・アンケート(時間・お金・活動)	・「一歩を踏み出す」後ろだて
④支援者への責任	・活動が不明瞭	B 一般町民に対して ・町の委員会や PTA 等への参画意識向上のための後援会、勉強会	・まちへの関心高まる ・多様な町民の意見が集まる
⑤議会に限らず町の様々な委員会への女性登用の低さ	・「一歩を踏み出す」ための雰囲気や支援が少ない ・町からの声かけの少なさ	・町からの声かけによる人材発掘	女性 模擬議会

「生活や仕事の変化」 発表内容

議員になる変化は、リスクを伴うもので、リスクを軽減するために何ができるかを考えた。

課題

☆ ①時間のリスク

原因

- 活動に要する時間・期間が分からない
- 能力や仕事量の差があり、仕事が分配されていないこと。

☆ ②お金のリスク

原因

- 活動費の目安が分からない。
調査費や交際費の目安が分からない

☆ ③キャリアのリスク

原因

- 落選時に戻る場所がない。
特に女性の雇用制度は日本全体で問題がある。

☆ ④支援者への責任

原因

- 活動が不透明
活動内容や公約への具体性が不明瞭なのではないか。

☆ ⑤議会に限らず、町の様々な委員会への女性登用の低さ

原因

- 「一歩を踏み出す」ための雰囲気や支援が少ない
- 町からの声かけの少なさ

女性研究員の意見

私もいろいろな委員会に参加しており、多くの要望を町に提案する機会がある。
女性参画審議会の中では、様々な委員会への女性の登用率30%の目標があるが、
一時期は28・29%になっていたが、ここ2・3年は下がってきている。
議員になる前に町の様々な委員会の女性の登用を高めたらいいのではないか。
そのためには、女性側の意識改革が必要でないかと思っている。
私に役場の方から〇〇委員になってくれないかと電話がある。
新しい方に声をかけるのを町で頑張ってもらって参画率を上げることで、町政への
理解や関心が深まると思う。
女性が年3・4回の委員会に行く勇気をバックアップすることが必要と考える。

解決策

A.議員候補者に対して

- ◎ 近い考えの候補者・支持者とチーム。仕事・お金の分配
- ◎ チーム同士での意見交換
- ◎ 町長との連携(チェック)
- ◎ アンケート(時間お金・活動)

議員候補や考えの近い方や支援者とチームを組む、仕事や費用の分配を考える。
チーム内外で意見交換、実際、時間が議員になって、こう変わったとか、費用などのことをアンケートなどで実際の生の意見を教えてもらいたい。

結果

- 他の人に頼みやすい。自身の仕事も優先しやすい。
- 町民参加が増えると、顔、活動内容を覚えてもらいやすい(=信頼されやすい)。
- 「一步を踏み出す」後ろだてが必要。

解決策

B.一般町民に対して

- ◎ 町の委員会や PTA 等への参加意識向上のための後援会・勉強会
- ◎ 町からの声かけによる人材発掘

結果

- 町への関心が高まる
- 多様な町民の意見が集まる
- 女性議会・模擬議会

女性研究員の意見

女性参画として町の委員会や PTA など、富谷市の PTA 役員は、ほぼ女性である。新興住宅地であればあるほど、女性が多く、昔からの町では男性が役員をしている。参加する勇気やバックアップがあり、当て職で町への参画意識の向上を持ってもらうために後援会や勉強会が必要でないか。

女性模擬議会や、他の議会では子ども議会があつて、実際に予算を付けていて、子どもたちの提案を形にすることで町政に関心を持つというのもあるので、模擬議회를復活させてはどうかと思った。

生活や仕事の変化として、女性だと家事の分担で不安があるが、生の声を聴くことで、家族や地域の方への説得など、具体的なことを聞いて女性の一步踏み出す勇気の後ろだてになれば良い。

参加した研究員の所感、意見

研究員 E(学生)

今回のゼミナールに町民のみなさんのお手伝いとして参加させていただいたが、驚いたことは町民の皆さんの熱量のすごさです。私がお手伝いしなくてもいいのではないと思うくらい熱心に話し合いをしていたのが印象的でした。そして、町のことをよく考えていることに感動した。

私も大学でまちづくりについて学んでいるので、刺激を受けた。

研究員 F

色々なテーマについて、様々な方が寄って話し合う機会がコロナで少なくなり残念でした。

集まって関心を持って議論するのが、まちづくりにとって大切だと改めて思った。

県議の副議長と話をする機会があり、町でこの活動をしていると話したら、時間が合えばいつでも行きますと言ってくれていたのも、それが叶えばと思う。

課題区分 E 「支援者や議会内での関係」

発表ワークシート

☆ 課題	□ 原因	◎ 解決策	○ 結果
☆支援者との関係	<p>□支援地盤としてのコミュニティ問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃校・コミュニティの中心 ・若い世代参加しにくい 	<p>◎区長・議員 推薦制</p> <p>推薦者、被推薦者の責任 区長は議員推薦できない</p> <p>◎支援者とのコミュニケーション</p> <p>政策に共感・応援 その進捗、結果は？</p>	<p>○ 議員と支持コミュニティが明確な関係になる</p> <p>○ 区長・議員・連動、協力</p> <p>○ 地域の課題が見えてくる</p>
<p>☆立候補の後、当選後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会で良好な関係を築けるか ・議会で主張できるか ・議会で孤立しないか 	<p>□地域課題、要望のあつかい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題がみえにくい ・まちとして充実、成熟 ・地域ごとの違い ・公平性 ・税金・配分の問題 	<p>◎5 区長単位、小学校区6 旧中学校区5 逆行する？財産区 管理会</p>	<p>○ 議員ひとりの意見ではなく、強力</p> <p>○ 議員に魅力を感じる人も出てくる</p> <p>○ 「地域」「コミュニティ」の輪郭がはっきりする。</p>
☆議会の団結 二元代表制	<p>会派のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策とグループの乖離 ・1人会派、最大4名 ・会派間の協力関係 <p>議員の力関係 政策の立案</p>	<p>◎会派・グループ・単独議員</p> <p>◎相互意見交換の機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策課題、共通課題、個別課題 ・政策の優先順位大切 ・予算の審議 ・行政と議会の協力チェック 	<p>○ 議員間、会派間が政策でつながるようになる</p>

「支援者や議会内での人間関係」 発表内容

一般町民も人間関係がベースになって社会で生きている。

議員の立場になるとある程度決まった付き合い、議会内での特殊な環境での人間関係があるのではないかと考えた。

課題

☆ 支援者との関係

良好に継続的に維持できているか

最近では選挙の時期にのみに集中していて良好な人間関係の構築が難しい時代になっているのでは。

原因

□ 支援地盤としてのコミュニティの問題

- ・支援地盤としてのコミュニケーションの希薄化している
- ・若い世代からの意見が出づらくなっているのではないか。
- ・中学校の統廃合の関係で、中学校でのPTA活動でより成熟したPTA活動になるはずだったが、地元で中学校がなくなり、地元の課題が見えづらくなってしまい、話し合う場がなくなったのが、大きく影響したのではないか。

□ 地域課題、要望の扱い

- ・地域課題の掘り起こし、要望の取り扱い
- ・昭和30年に町村合併して、その時には地域の垣根をなくそうと考えた。
- ・大和町という町はひとつであると歴代の議員も苦労してきた。
- ・地域ごとのコミュニティと限定すると垣根ができてしまう。
- ・大和町はひとつの町として地域ごとの格差をなくすための行政を考えていかないといけない。

解決策

◎ 区長・議員推薦制

◎ 支援者とのコミュニケーション

◎ 5区長会単位、小中学校区

- ・議員は選挙制度により選出されているが地域ごとに1人ずつ選出できないか。
- ・区長は地域から1人ずつ選出されていて、町の課題解決について話をしている。
- ・議員も地域から推薦された方を選ぶことで、まんべんなく意見を取り入れてもらえるのではないか。
- ・財産区管理会によって大和町の財産が地域限定で管理されていて、地域の垣根になっている。

結果

○ 議員と支持コミュニティが明確な関係になる。

○ 区長、議員・連動、協力

区長と議員の仕事が共同連携して町の行政に反映する機会が増えてくる。

○ 地域の課題が見えてくる

一番は、地域ごとに地域の課題が見えてきて、うえに上げることができるようになり、地域の課題を埋没させないこと。

- 議員ひとりの意見ではなく、強力
議員が議会で政策論議をするときに強力な後ろ盾として地域の皆さんが居るという明確な意識づけが出来る。
- 議員に魅力を感じる人も出てくる
- 「地域」「コミュニティ」の輪郭がはっきりする
コミュニティ、コミュニケーションが多くなるのが好ましいがコミュニケーションが図れる関係を築いてもらえれば良い。

課題

☆ 議会内での議員同士での人間関係

立候補の後、当選後

- ・議会では良好な人間関係を保ってもらいたい。
- ・議会で主張できるか
議会内ではそれぞれの議員が堂々と意見を述べられ、主張できる雰囲気づくりが必要である。
- ・議会で孤立しないか

☆ 議会の団結二元代表制

議会内で孤立しない雰囲気の中で議会としてまとまった意見として町長の意見と相対して、町長が出してきた意見を廃案にすることも可能である。

協力した体制で議会があればいい。

場合によっては是々非々になる考え方もある。

原因

□ 会派のあり方

- ・政策グループのかい離
- ・1人会派、最大会派は4名
- ・会派間の協力関係

□ 議員の力関係

□ 政策の立案

良好な関係ができない原因として、一人会派や最大会派は4名と聞いた。会派が政策グループなのか仲良しクラブなのか、会派のあり方も真剣に考えて行かなければいけない。そして、会派での人間関係も良好にあるべきだ。

解決策

◎ 会派・グループ・単独議員相互意見交換の機会

- ・政策課題、共通課題、個別課題
- ・政策の優先順位大切

- ・予算の審議
 - ・行政と議会の協力・チェック
- 会派、グループ、単独議員の相互意見がフリーで交換できる機会があれば良い。

結果

○ 議員間・会派間が政策で繋がるようになる

議員と会派間が政策でつながっていくことで町政に大きく反映できる。

参加した研究員の所感、意見

研究員 G

- ・消防団の役職をしているが、我々は町の政策の結果に従って動いている。
- ・どのように形にするかは議会で形をつくる。仕組みは町長、町(行政)がつくる。
- ・町と議会が一緒になってカッコいいものが出来れば、我々は喜んで活動することができる。
- ・みんなが羨むような議会になれば、最終的には私も議員になりたいと思う人もでてくる。

研究員 H

- ・E グループは詳しい先輩方や、子育て世代もいて、私も話に加わらせてもらった。

宮城大学 事業構想学群 平岡善浩教授

それぞれのグループで話し合われたこと伝えました。

解決策として出ているところが同じや、議会や庁舎内だけでなく、外の課題もありました。

これから、この成果が、どう活かされていくか、5回の参加された方は熱を持って参加されていました。

ありがとうございました。

4. 講評 東北大学大学院 河村和徳准教授

参加された皆様お疲れ様でした。

議員の方々もお忙しい中、参加していただいてお疲れ様でした。

皆さんの意見で「ちょっと違うのでは」と思う話もあったと思う。

民主主義で難しいのは、多様な意見に寛容に耳を傾ける事。

効率的な意思決定は、良いように思えるが、民主主義の議会での選択制にすることになったのかというと、一番上が間違った選択をするとあつという間にみんな困った状況になるからである。某国のようなことが起こる。

みんなの声を聞こう、違う意見の人に耳を傾けようとしてできているのが、議会である。

大事なのは、なぜ議会や少数派の方がそう言っているのか、なぜ住民の方々がこんな提案を出しているのか、意見を受け入れる度量があることを前提とした制度である。

次年度以降、具体的に動かす時にまた議論が必要になってくる。

時間のかかる仕組みという側面もある。

そこを面倒くさがっていると停滞しかない。民主主義は常に動いていかないといけない。

常に小さい改革が繰り返されなければいけない仕組みである。

人間の体に例えられるが、1か月後2か月後では見た目は変わらないが、細胞では新陳代謝で変わっている。見た目代わってないが、中身が入れ代わっている。

外界からの刺激を受ければ、見た目には分からないが変わっていかないといけない。

議員の皆さんにはアンケートを依頼しておりまして、全国、市区議会と町村の場合は宮城県他 10 県の全議員の全数に調査票を送ってアンケートを取っている。

その前に議会事務局にもアンケートをお願いして、あり方とデジタル化のアンケートをさせていただいた。

議員の集計結果は出ていないが、1500 の自治体・議会からの回答があり、「この 5 年間でなり手不足の議論があったか」という問いに対して、定数を削減するとしたのが 49.2%、議員のなり手が減っているから報酬を増やす会議をしたのが 27.2%であった。

都市部の方では議員の報酬減らせと言っているが、増やせという議論をしている所もある。さらに取り組みとして委員会や組織をつくったのは 7.9%で、さらに進んでいる所は自治体と住民向けのシンポジウムをやったのが 1.8%である。

そうして考えると、この取り組み(これからの大和町議会のあり方プロジェクト)は、ファーストペンギン、アーリーアダプターである。

ファーストペンギンは、最初に海に飛び込む 1 匹目のペンギンの中で、そのペンギンに続いてみんな飛び込んでいく。一番最初という意味である。

アーリーアダプターは、流行の研究で流行の品を最初に買う人であり、新しいものをやる人のこと。その人の次についてくる人をアーリーマジョリティといっている。

大和町のこの取り組みはアーリーアダプターやファーストペンギンだといえる。

その時に住民参加に議員に意見する場を設けているのは、全国では 5.7%であり、その中に入っている。

先頭というのは大変であって、そこで試行錯誤があつて、得られたノウハウが全国に広がっていく。最初というのは、背負っている物もあるが、やりがいもあり、歴史に残る話になる。

その時、住民説明会をやっているのが 28.9%しかない。女性議会など多様な仕掛けをやっているのは 15.9%しかない。ある意味で実はやっていないと言える。

今回出た話でも「いや、それは法律変えなきゃ無理だろう」というのもあったが、実際、大学の世界では議員をくじ引きで選んだらどうかというのも真剣に研究している人もいる。議員がくじ引きだったら裁判員と同じで欠席が出るだろうなど議論している。それも意見に対して寛容であるから言えることである。

そうした点で、こういった取り組みをしたという点で評価できるが、注意しなければいけないのは記録を残すことであり、大和町でこういったことをやっていることをみんな知らないで終わってしまう。

ネットが入ってきて町内会の人以外の人ともつながりやすくなる。それに合わせて少しずつ変えていく必要がある。

今日は、ここで終わりではないので、本日は中間発表会という位置づけであるので、今日新しいスタートラインについたと思って頑張っていただければと思う。

次のなり手をどう育てていくか、長野県では、こういう会議に参加した方が、次の議員の予備軍になっていっている。

女性の委員が「私が出る」となることもあると聞く。

議会のなり手不足は、地域の人づくりとも連動している。政策に強い地域をつくっていかないと都市間競争に負けてしまう。

行政のレベルは、ある意味、住民のレベルの鏡でもある。

そういったところに繋がると思いながら今日の発表を活かしていただければと思う。

皆さんの今日の経験を自分たちで大事だと抱え込まないで、色々しゃべっていただいて、高校生の人は、大学入試の推薦の時に必ず書きましようというくらい貴重な経験である。

多様な意見があるから、新しいエネルギー、新しい意見が出てきて、クリエイティブなイノベティブな意見や考え方ができるという発想である。

おそらく議会も同じで地域の自治もそうだと思うので、結び付けていただければいいと思う。

5. 閉会挨拶 槻田副議長

本日は年度末の大変お忙しい中、参加していただきまた素晴らしい発表ありがとうございます。

また、平岡先生、河村先生この場をお借りして御礼申し上げます。

大和町議会も来年度から皆様と一緒に、これからの大和町議会のあり方を皆様と一緒に方向性を進めさせていただきますので、これからもご協力お願いします。

本日はお疲れ様でした。